

## マーケットの動き（2022年7月11日～7月15日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

6月の米国CPI（消費者物価指数）が予想を超える伸びとなったことで、7月のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で決まる利上げ幅が1%になるとの観測が市場で強まると同時に、米国経済が景気後退に陥るとの懸念も高まり、米国長期金利は低下しました。

ドイツ国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

## 投資環境見通し（2022年7月）

## 長期金利は米国ではレンジ内での動き、欧州（ドイツ）では方向感に欠ける展開

**米国：**7月のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で0.75%利上げ観測を含めた年内の利上げ見通しは相当程度織り込まれたとみられます。さらに景気が悪化すると一部の見方もあり、今後の金利上昇余地は限定的と思われる。しかし、インフレが高止まり、FRB（米国連邦準備制度理事会）の積極的な金融引き締め強化が警戒される中、長期金利の低下余地も限定的と考えられ、3%台前半を中心としたレンジ内での推移を予想しています。

**欧州：**ドイツ長期金利は、米国債券市場の動向を注視しつつ、ウクライナ情勢やECB（欧州中央銀行）による今後の利上げ見通し、エネルギー価格や物価関連の経済指標などに神経質な展開になるとみられ、変動率の上昇を伴いながらも方向感に欠ける展開を予想しています。

	7月15日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	2.93	▲0.17	▲0.45	1.16	1.63
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	532.77	2.34%	4.61%	4.76%	4.38%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202207\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202207_outlook.pdf)

## 主要国国債利回りの推移



## FTSE世界国債インデックスの推移



※2021年6月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>